

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 スタートアップ支援ネットワーク事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 商業・金融課 資金融資係 電話番号：058-272-1111 (内 3063)

E-mail：c11363@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,100千円 (前年度予算額：1,100千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,100	298	0	0	0	0	0	0	802
要求額	1,100	301	0	0	0	0	0	0	799
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

本県は、人口の自然減に加え、社会減が続いており、2018年9月には200万人を下回った。社会的要因(就業、学業、結婚など)による減少のうち、特に7,000人の大学進学者のうち5,000人以上が県外へ進学し、若者の流出が深刻となっている。

また、直近10年間のスタートアップ比率は5.47%で全国最下位とされている(2018/10日経ビジネスより)。

このような中、新産業・新サービスの創出と担い手の育成が急務となっている。

県では、金融機関や大学、産業支援機関等と連携し、より一体的で効果のあるスタートアップ支援の展開を図るため、各機関の取組みの情報共有や今後の連携のあり方などについて検討することを目的に、令和元年7月から岐阜県スタートアップ支援ネットワーク会議を開催した。

(2) 事業内容

○スタートアップ支援ネットワーク会議

ネットワーク会議の事務局として、年に3~4回、会議を開催し、県内のスタートアップ支援のあり方について検討する。

また、構成機関担当者のスキルアップを目的に、有識者等を講師とした勉強会を年に2回程度、会議と併せて実施する。

○スタートアップカフェ

創業間もない起業家が、経営者の方に気軽に出会える場として、月に1回程度、県内経営者との小規模な交流会を開く。先輩経営者をメンターとし、経験に基づくアドバイスを受けたり、経営者や集まった起業家同士でのつながりを作る場とする。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内の起業・スタートアップを支援し、新産業・新サービスの創出、新たな地域経済の担い手を創出することは県経済の振興につながるものであり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

・なし

3 事業費の積算内訳（単位：千円）

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	224	講師謝金
旅費	402	講師費用弁償、打ち合わせ業務旅費
需用費	64	消耗品等
役務費	83	チラシ配布に係る通信費等
使用料及び 賃借料	327	会場使用料
合計	1,100	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

中部経済産業局では、令和元年7月から岐阜、愛知、三重、名古屋、浜松や経済団体、大学等が参加しベンチャー・スタートアップ支援体制の強化や地域を挙げた協業加速化に取り組むため、Top Stream プロジェクト連携会議を主宰している。

令和2年7月、内閣府から愛知、名古屋及び浜松地域が「スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市」として認定を受けた。両地域が共通の基盤である産業基盤と地域間の密接なつながりを生かし、共通のビジョンをもって革新的なイノベーションとスタートアップの創出、シナジー効果の発揮に一体的に取り組む、世界に伍するグローバルなスタートアップ・エコシステム形成を目指している。

愛知県では平成30年4月に、大学、金融機関、民間企業、経済団体等関係機関の参画を得て、「Aichi-Startup 推進ネットワーク会議」を発足し、「あいちスタートアップ・エコシステム」を推進している。

また、他県でもスタートアップ支援拠点で起業家によるセミナーを開催し、起業に興味のある方が気軽に起業について学ぶことのできる場をつくることで、起業の機運醸成を図っている。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・定期的に会議を開催し、金融機関や大学、産業支援機関、県等が連携することで、より一体的で効果のあるスタートアップ支援の展開を図る。
- ・創業間もない起業家が、先輩経営者からアドバイスを受れたり、出会える場を設けることにより、起業家の成長を支援する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値	目標	達成率
スタートアップカフェ参加者数	(H)	(H) (H)	13人 (R2.9末)	240人 (R4末)	10.8%
	(H)	(H) (H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ・スタートアップ支援ネットワーク会議
令和2年7月（書面）に開催。
 - ・スタートアップカフェ
令和2年9月に先輩起業家との交流会をオンラインで開催。

（前年度の成果）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ・スタートアップ支援ネットワーク会議
各機関の起業支援に関する取り組みの情報共有や今後の連携のあり方等について検討を実施。
 - ・スタートアップカフェ
起業家が経験談を語ったほか、交流して課題等を共有、助言し合った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） <p>○：必要性が高い △：必要性が低い</p>	
(評価)	<p>○</p> <p>県内の起業・スタートアップを支援し、新産業・新サービスの創出、新たな地域経済の担い手を創出することは県経済の振興につながるものであり、事業の必要性は高い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <p>○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている</p> <p>△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <p>○：効率化は図られている △：向上の余地がある</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>他県（愛知県）や中部経済連合会などの先進的な取組みについても参考にしながら、支援のあり方を検討する。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>県内の起業家やカフェの参加者からも支援に関するニーズを聞き、支援方法に反映させていく。</p> <p>ネットワーク会議の出席者は固定とするのではなく、内容に応じて柔軟に対応する。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	